

	委員名	意見等の内容	回答	担当
①	行天委員	<p>不登校の問題は喫緊の課題であり、保育園や福祉関係者も学校や教育だけの問題として捉えず、もっと意識を持つべきである。</p> <p>保育や幼児教育の現場では家庭問題への踏み込みが不足しており、ソーシャルワーカーのような支援者の配置がなく、子どもの成長の支援が卒園までで終わってしまっているのが現状である。卒園後も家庭と学校をつなぐ役割を担う支援者の必要性がある。</p>	<p>・支援者の配置による卒園(所)後に家庭と学校をつなぐ支援については困難であるが、不登校の理由は様々であることから、子育て相談室で不登校に関する相談を受けた場合は、専門職や幼保園、学校、関係機関等と連携し、個々の状況に応じた丁寧な対応に努めている。</p>	<p>保健こども家庭課 (こども青少年局) (福祉課)</p>
②	グループディスカッション での意見	<p>不登校の理由は子どもごとに異なり、保育所から小学校・中学校へと情報を連続して共有し、発達障がいなど複合的な課題にも丁寧に対応することが重要である。</p>	<p>・一般的には、複合的な課題のあるお子さんが小(中)学校へ就(進)学する際は、保護者が学校へ就(進)学可能か確認していただくことになっていることから、学校への情報共有は行っていないが、子育て相談室で不登校に関する相談を受けた場合は、専門職や幼保園、学校、関係機関等と連携し、個々の状況に応じた丁寧な対応に努めている。</p>	<p>保健こども家庭課 (こども青少年局)</p>
③	グループディスカッション での意見	<p>一部の保護者において、不登校になった際に「学校へ行かなくてもよい」と考える傾向が見られることから、学校生活や集団生活の重要性について保護者への意識啓発が必要である。</p>	<p>・学校における集団生活は人間関係と社会性の形成、自主実践的な態度を培う基盤となりますが、国において、不登校の児童生徒に対し無理に学校へ登校することだけを目標とせず学校外の機関(フリースクールなど)を通じて社会的自立を目指す方針も重視しています。</p> <p>・一方、保護者には、様々な考えや環境があるため一律に啓発することは困難であると認識している。</p>	<p>教育文化課 (教育委員会)</p>
④	グループディスカッション での意見	<p>近年PTA活動が縮小傾向にあることから、PTAへの協力や支援の必要性がある。</p>	<p>・教育委員会では、団体育成の観点で助言をおこなう立場で、PTA活動の促進に努めている。</p> <p>・区としても区PTA協議会に参加をし、意見交換を行う中で現状把握などに努める。</p>	<p>教育文化課 (教育委員会)</p>
⑤	グループディスカッション での意見	<p>外国人児童生徒の増加に伴い、日本語指導を支援する体制の必要性がある。</p>	<p>・教育委員会において、外国につながる児童生徒の受入れ、共生のため日本語指導を支援する仕組みなどを進めている。</p>	<p>教育文化課 (教育委員会)</p>

⑥	グループディスカッション での意見	いじめ対策については、被害者支援だけでなく加害者への支援も検討すべきである。	・学校では、いじめ対策基本方針のもと被害児童生徒をいじめから救済し、その尊厳を守ることを最優先するとともに、加害児童生徒の人格形成を健全なものにするためにも、「いじめを許さない」というぶれない方針の下、事前に明示したルールに基づき、重篤度に応じた段階的な指導を行っている。	教育文化課 (教育委員会)
⑦	グループディスカッション での意見	教室や居場所の確保はできても教員や専門スタッフの人手不足が大きな課題となっている。特に専門スタッフは常駐し、子どもと信頼関係を構築することが重要だが人員配置が困難である。	・あらゆる分野において、人材不足は今後の大きな課題であると認識している。	教育文化課 (教育委員会)
⑧	グループディスカッション での意見	不登校の児童生徒に対し、多様な教職員や地域、PTAなどが連携して支援につなげる取組が必要である。	・PTAや地域が連携し実施している登下校時の見守り活動の際に、気になる子への声かけや学校への連絡を行って頂いている地域もある。 ・不登校児童生徒に対する支援につなげる取組については、可能性も含め今後の検討事項である。	教育文化課 (教育委員会)
⑨	グループディスカッション での意見	子どもに関わる様々な団体(子ども食堂、民生委員、主任児童委員など)間で情報を共有する場を設けることが必要で、連携強化が求められている。	・校区単位での民生委員・児童委員及び主任児童委員、学校、こども食堂等との情報共有の方法や仕組みに関しては、今後の検討事項である。	生活支援課
⑩	グループディスカッション での意見	小学校の勉強を前倒しするのではなく、遊びを取り入れた幼児教育の充実が大切ではないか。	・公立幼稚園では、子どもが思わず遊びたくなる魅力的な環境の中で「やってみよう」「もっとしたい」という意欲を支え、思考力、判断力、表現力などの基礎を育みます。 ・私立の施設では経営者(法人)の方針のもと幼児教育が進められている。	教育文化課 (こども青少年局 教育委員会)
⑪	グループディスカッション での意見	昔の子どもたちは地域で育てられているといった面があった。学校と地域がもっと連携して取り組んでいく必要があるのではないか。	・学校と地域が連携し登下校時の見守り活動などを行うとともに、広報紙による活動の情報発信、子ども見守り隊連絡会や交流会において学校・PTA・地域の情報共有を実施している。	教育文化課 (教育委員会)
⑫	グループディスカッション での意見	学校として教員は子どもの指導は行いが、保護者への指導は難しいため、相談できるところが必要ではないか。	・教育委員会の指導主事や必要に応じスクールロイヤーが主な相談窓口となる。	教育文化課 (教育委員会)